

長尾 優 装幀のお仕事展

Nagao Masaru

Une rose seule, c'est toutes les roses.
一輪の薔薇はすべての...



キリスト教関連書籍の装幀に長く携わってきた
装幀者、長尾 優による装幀作品、初の展示会。

- 装幀の制作コンセプト、使用した素材、制作工程等をわかりやすいパネルで紹介します
- 長尾優が装幀を担当した書籍の多くを同フロアのキリスト教書部で購入することができます
- 関連特別イベント(8月31日)の対談者、森 一郎氏(東北大学大学院教授)のおもな著書も同時に販売されます

■会期

2024年(令和6年)
8月23日(金)～9月1日(日)
平日10:00～19:00, 日曜13:00～19:00

■会場

銀座教文館3階ギャラリーステラ
東京都中央区銀座4-5-1(ウラ面の地図をご参照ください)

協賛: 銀座教文館、キリスト新聞社

「一輪の薔薇はすべての… 長尾 優装幀のお仕事展」関連特別イベント

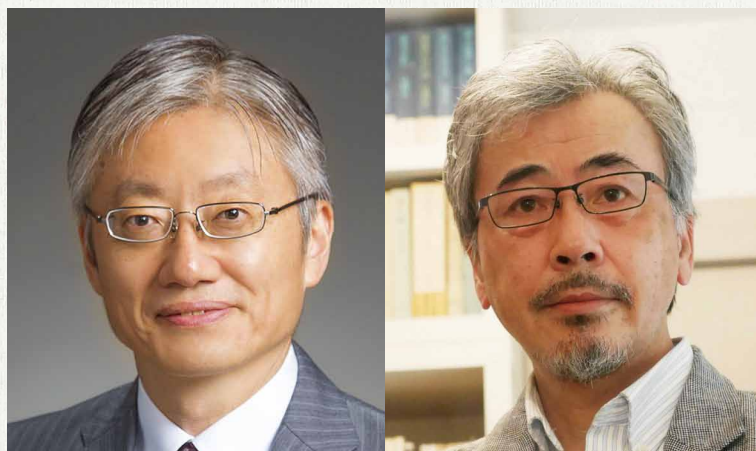
哲学研究者

装幀者

森 一郎×長尾 優による対談

「もの・ひと・そして世界」

著者と装幀者として本づくりの現場に関わってきた二人が、重さ、形、手触りと薫りを伴った書籍をめぐる〈ものづくり〉の愉しさをもち寄って——。最新著『アーレントと赦しの可能性』に描かれた〈イエスと赦し〉というキリスト教の大命題に、哲学の地平から捉えられた新たな可能性とは……など、それぞれの仕事から見えてくる発見、課題、展望について自由に語り合います。



森 一郎(もり・いちろう)

東北大学大学院情報科学研究科教授

1962年埼玉県生まれ。東京大学文学部卒業。東京大学大学院文化科学研究科修士課程修了、同博士課程中途退学。東京女子大学文理学部教授を経て、現在、東北大学大学院情報科学研究科教授。博士(文学)。専攻は近現代ドイツ哲学、現代における哲学の可能性。

著書：『死と誕生——ハイデガー・九鬼周造・アーレント』(東京大学出版会、第21回和辻哲郎文化賞・学術部門受賞)、『死を超えるもの——3・11以後の哲学の可能性』(東京大学出版会)、『世代問題の再燃——ハイデガー、アーレントとともに哲学する』(明石書店)、『ハイデガーと哲学の可能性——世界・時間・政治』(法政大学出版局)、『ボリスへの愛——アーレントと政治哲学の可能性』(風行社)、『アーレントと革命の哲学——『革命論』を読む』(みすず書房)、『快読 ニーチェ『ツァラトゥストラはこう言った』』(講談社選書メチエ)、『アーレントと赦しの可能性——反時代的試論』(春風社)。翻訳者として、ハイデガー、アーレント、ニーチェらの邦訳出版も多数手がけている。

■会期

2024年(令和6年)

8月31日(土) 13:30~16:00

■会場

日本基督教団銀座教会

B1F集会室 東京都中央区銀座4-2-1

■人数 80名(先着順・要予約。下記へEメールでご予約ください)

■会費 お1人1,000円(頒布する装幀図録代など、当日受付にて)

長尾 優(ながお・まさる)

ロゴス・デザイン主宰

1959年岡山県生まれ。関西学院大学文学部史学科卒業。東京のデザイン制作会社での9年間の勤務を経て、1992年に独立、ロゴス・デザインを立ち上げる。パンフレット、リーフレット、フライヤー、会社案内、学校案内などグラフィック・デザイン全般の仕事を手がけるが、キリスト教系出版社との関わりの中から装幀(ブックデザイン)に取り組む仕事の比重が次第に増え、装幀者としての現在に至る。随想に『信仰の半歩前』(新教出版社)、『空になる心は春の』(キリスト新聞社)がある。現在、月刊雑誌『福音と世界』(新教出版社)に「私は告白する、私の神を」を連載中。



長尾 優が装幀を手がけた森 一郎の著書



■装幀のお仕事展／銀座教文館

東京メトロ銀座線、日比谷線「銀座駅」下車、A9出口またはA13出口から徒歩約5分

■特別対談／銀座教会

東京メトロ丸ノ内線「銀座駅」下車、C6出口またはC8出口から徒歩約1分

JR山手線「有楽町駅」下車、中央口から徒歩約5分

本対談は予約制・先着順80名様限定イベントです。参加ご希望の方は、お名前、参加人数、当日連絡がつく携帯電話の番号を明記のうえ、下記メールアドレスからのご予約をお願いします。

londel.unico.03@gmail.com

教文館の公式サイト(→キリスト教書部→催事情報)で本対談及び「長尾 優装幀のお仕事展」に関する情報がご覧になれます。

<https://www.kyobunkwan.co.jp/xbook/>

定員に達した場合の予約申込締め切りもここに告知されます。